伊賀日本語の会

海外にルーツを持ち伊賀市に住む人たちに日本語を教える「伊賀日本語の会」。既に30年の実績があります。さまざまな国から来た移住者たちの共通言語は、英語ではなく、ここでは〝伊賀弁〟。日本の暮らしに慣れず、不安な気持ちを持つ移住者を優しく積極的に受け入れる〝おせっかい〟が魅力です。

代表　菊山 順子さん

お問い合わせ

「伊賀日本語の会」
伊賀市上野東町2948
「多文化センターいが」内
TEL 0595-23-0912

伊賀市の「上野公園」にほど近い「伊賀市総合福祉会館」。水曜と土曜の夜には、さまざまな国からの移住者が集まります。日本語を教えるのは地元の日本人。教える側も教わる側も、楽しそうなのが印象的です。代表の菊山 順子さんにお話を伺いました。

――この会を始められたきっかけは何ですか。

菊山…平成2(1990)年に出入国管理に関する法律が変更されてから、伊賀市にもたくさんの外国人が住むようになりました。でも、市役所などでのサポート体制が整っておらず、色々な面で困っている人が多かったんです。そこで初代代表となった藤本 久司さんが「外国人住民たちのために何かをしよう」と呼びかけ、それに応じた有志25人が3年後に会を立ち上げました。

――市民が行政をリードする形ですね。

菊山…手探りで始めてみたら約100人もの外国人が集まって驚きました。当初は日本語を教えるより先に、困りごとの相談に乗る必要がありました。そこで、市長に来てもらって「こんなに困っているんです」と現状を知ってもらうことにしたのです。その後、市役所でも通訳などのサポート体制が整えられていきました。

2020年11月　伊賀市「善行賞」を受賞※

――今はどんな活動をされていますか。

菊山…日本語の会話だけでなく、読み書きも教えますし、オンライン授業も行っています。生徒さんには1回200円を支払ってもらい、教える日本人は無報酬です。教材や教え方に工夫を重ねる一方で、バーベキュー大会など、親睦の機会も作るようにしています。

交流の機会には卒業した人たちも集まる※

――生徒さんは色々な国から来ているようですが、先生は多言語が話せる方たちですか。

菊山…生徒は、今日来ているだけでも、フィリピン、ブラジル、ネパール、ベトナム、キルギスなど、さまざまな国から来ています。でも、日本語で日本語を教えるので、教える方は外国語が出来る必要はないのです。特別な資格も要りません。外国からの移住者同士がどの言語で話すかについて調べた研究者によると、都市部では欧米から来た人が多く、共通言語は英語になる場合が多いのですが、伊賀市の場合は、南米やアジア圏からの移住者が多く、その共通言語は〝伊賀弁〟なのですよ。

――皆さん伊賀弁もまじえて楽しそうに話されていますね。

菊山…方言や風習になじんでもらうのも大切なことだと思っています。地元の文化や気候のことなどを知らないと困ることがありますね。また、「困ったことはない?」と話しかける〝おせっかい〟をするようにしています。そして、今、心がけているのは「やさしい日本語」です。外国人にも理解しやすいように配慮した簡単な言葉遣いですね。

最初に制作したオリジナルのテキスト※

読み書きもできるように

授業では気候や風習などもまじえて会話

――正しさよりも分かりやすさが大事なのですね。生徒さんたちはずいぶん上達されていますね。

菊山…若い人たちが多いこともあり、皆さんぐんぐんうまくなります。日本語が上達してからも、ずっと続けて来てくれる人が多くて嬉しいです。

――ありがとうございました。今年は、30周年の記念の企画もあり、ボランティアの募集も行っているとのこと。ちょっとした〝おせっかい〟の精神が人の心を開き、つなぐのだと感じました。

インタビュー…堀口 裕世

25周年記念交流&発表会※

※印の写真は取材先から提供していただきました